


一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成26年11月17日

山北町議会議長 池谷 莊次郎 殿

受付番号	第3号	質問議員	13番	瀬戸 恵津子 
件名	経験豊かな高齢者の活力を活かす			
要 旨				
<p>介護保険制度見直しにより介護予防事業が市町村事業になる中、誰もが住み慣れた地域で暮らし続ける為に、身近な地域での住民同志の支え合い活動による地域包括ケアシステムが必要といわれています。</p> <p>平成27年度以降における地域包括ケアの構築を見据えて、施策内容を第5期山北町高齢者福祉計画・介護保険事業計画で充実強化させていくとしています。高齢化率は、平成26年において32%占めている当町では、団塊の世代が75才に達する平成35年では38%と想定されています。高齢者の社会参加を一層進めることを通じて元気な高齢者が、日常の生活支援の担い手としても活躍する事が期待され、社会的役割を持つことは、生きがいづくりや介護予防にもつながるといわれています。今までの介護予防教室等での実績をふまえて、平成27年度からは、さらに町独自の施策が期待されるところです。元気な時からの途切れのない介護予防の継続、日常の生活支援の充実に対する今後の取り組みについて町長のお考えを伺います。</p> <ol style="list-style-type: none">1、生活支援サービスの充実については、専門的なサービスを必要とする人は、介護保険により専門サービスを受けることができるが、認定に至らない高齢者は日常的な多様なニーズを多様なサービスを受ける事により、在宅生活の安心を確保できると思うので、多様なサービスの拡充をすべきである。2、リハビリ、栄養、口腔ケア等の専門職の指導する教室の対象者の年齢を65歳からとすべきである。				

- 3、 住民主体で参加しやすい地域の交流の場を増やしていくことは必要だが、総合的な観点から情報の収集ができるのは行政しかないので、中心となってコーディネートすべきである。
- 4、 サービス利用料は、サービス内容によるが、年金生活者が多いなか住民主体の活動により利用料を低くすべきである。
- 5、 介護予防支援や日常生活支援ボランティアに対してポイント制や助け合いの時間を預託し、将来必要になった時に、引き出して使用する時間預託制度等タイムバンキング制度の創設をすべきだ。
- 6、 高齢者はもとより、多くの町民は日常的にラジオ体操、パークゴルフ、ゲートボール、リズム体操、散歩等に励んでおり、希望者にはポイントカードが配布されている。運動カードとしてリニューアルし、さらなる活用を図り、医療費の削減となるよう健康維持・増進に励んでもらうようにすべきだ。

以上伺います。